

令和5年度 学校法人昭和学院 事業計画書

1.基本方針

①財政の健全化への取り組み

- ・経営改善計画の遂行を推進します。
- ・学校ごとに各教科の授業時間数に見合った教員数を見直し、採用事務にあたります。
- ・教育研究経費等、支出(委託契約を含む)の見直しを行い経費の削減に努めます。
- ・補助金の積極的、効果的な利用に努めます。

②時間外勤務削減への努力

- ・業務の見直しと改善を行い、職員配置の最適化を図ります。
- ・1年間の変形労働制を維持し、労働時間の柔軟性を保ちます。
- ・DX(デジタルトランスフォーメーション)化推進による情報資源の共有と業務の効率化を図ります。

③昭和学院のブランド力向上

- ・新しい時代に適した戦略的広報活動を充実させ、競合他法人(他校)との差別化を図ります。
- ・法人、中高ホームページにて、最新の教育活動の情報発信に努めます。
- ・SDGs への取り組みとその教育的成果を公表します。

④ガバナンス強化とコンプライアンスの遵守

- ・積極的且つ正確な情報公開により、広く社会に信頼され開かれた学院を維持します。

⑤教育環境の維持改善

- ・施設設備の計画的な更新を行います。
- ・LED化を推進します。
- ・近い将来の改築、大規模改修のための資金の確保に努めます。

⑥寄付金の募集

- ・寄付金募集の広報活動を強化します。

2.事業計画

(1)昭和学院短期大学

【基本方針】

本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「明敏謙譲」の教育理念のもと、職業または实际生活に必要な専門的学術技芸を授けるとともに、良き社会人として教養を高め、真に平和を愛好し、人類の文化及び健康福祉の向上に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。

この目的をはたすために本学は 2 学科 2 専攻を擁し、各々の教育目的と教育目標を掲げている。

学科・専攻の教育目的

人間生活学科

人間尊重の立場から人間生活を総合的に捉えることのできる人間の育成を目的とする。

〈キャリア創造専攻〉

キャリア設計を主体的に創造することができ、ビジネス社会に対応できる人材の育成をめざす。

〈こども発達専攻〉

人間の心身の発達について理解し、他者と関わる能力を身につけた保育者の育成をめざす。

ヘルスケア栄養学科

人の健康を食と栄養の面から支援・指導できる能力を持ち、健康増進・予防医療・福祉に貢献する人材の育成を目的とする。

学科・専攻の教育目標

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスのとれた能力（知識・理解・技能・表現）と、それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲（思考・判断・関心・意欲・態度）とを自ら育み備える。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリア設計を主体的に創造することができる力を備える
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につける

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につける
2. こどもたちの個性や可能性を大切にして、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につける

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身につける
2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につける

本学は建学の精神に基づき、以下の通り学科・専攻ごとにディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定めている。

①ディプロマポリシー（学位授与の方針）

人間生活学科

教養科目、基礎科目、専門科目における高いレベルでバランスの取れた能力と、

それを基盤にしてより良い人間生活を目指して諸課題を解決しようとする意欲とを自ら育み備えている。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自らのキャリアを設計し、時代の変化に即応できる力を備えている（社会人基礎スキル、思考力）
2. 消費者の立場を理解し、多様なビジネスに対応できる知識、技術を身につけている（専門知識・技術、コミュニケーション力、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	生活者・社会人としてグローバル社会の中でも通用する教養やマナーを身につける
専門的知識・技術	生活を科学的に観察し理解することができ、目指すビジネス社会に対応した知識・技術を身につける
思考力	専門的知識・技術を活用して、問題解決のためのプロセスについて筋道を立てて考え、表現できる
コミュニケーション力	グループ学習や実験実習において他者と関わることで他者を尊重し協力して問題解決ができる
実践力	専門的知識や技術を家庭生活や社会生活の中で活用できる
向上心・責任感	ビジネス社会の一員としての社会的役割を理解して責任ある行動をとることができる

〈こども発達専攻〉

1. 人間に関わる理論を学ぶことで、精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、問題解決へ向けての応用能力を身につけている（社会人基礎スキル、思考力、コミュニケーション力）
2. こどもたちの個性や可能性を大切にして、人格形成に関わる適切な指導や援助のできる保育力および人の気持ちへの受容・共感・支持の態度を身につけている（専門的知識・技術、実践力、向上心・責任感）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	社会人としての教養・マナーを身につけ、自己理解の上で自己表現ができ、保育現場の発展に役立つことができる
専門的知識・技術	専門分野における基本的な知識・技術を身につけ、こどもたちの個性や可能性を大切にできる
思考力	人間が精神的、身体的に健康に生きることへの問題意識を持ち、知識・技術を活用して、子育てや子育ての問題解決のためのプロセスを考えることができる
コミュニケーション力	こどもの心身の発達理解を下に、子どもや保護者の気持ちを理解し、他者を尊重し、協力して問題解決ができる
実践力	保育場面において、具体的な保育の構想計画を立てることができ、知識・技術を活用して、実践できる
向上心・責任感	保育者としての役割や保育・教育理念を理解し、自分自身を高める学習や行動、責任感ある行動を実践できる

ヘルスケア栄養学科

1. 豊かな人間性を養い、健康増進・医療・福祉に貢献しようとする姿勢を身に

つけている（社会人基礎力、向上心・責任感）

2. 専門科目の講義や実験・実習・演習を通して、人の健康を食と栄養の面から支えるために必要な高度な専門的知識・技能を身につけている（専門的知識・技術、思考力、コミュニケーション力、実践力）

【学修成果】

評価指標	到達目標
社会人基礎スキル	栄養士・社会人として必要な教養・マナーを身につける
専門的知識・技術	食・栄養分野における専門的な知識・技術を身につける
思考力	筋道を立てて物事を考え表現できることや知識を活用して問題解決に向けて計画・準備できる
コミュニケーション力	問題解決に向けて協力して行動できる
実践力	栄養士としての専門知識・技術を活用し、実践できる
向上心・責任感	栄養士の社会的役割を理解し、責任ある行動を身につける

②カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間生活学科

人間生活学科の教育課程として、豊かな人間性と幅広い教養を身につけるための「教養科目」、生活者として必要な本学科の基幹となる学問領域としての「基礎科目」、専攻の教育目的を達成するための「専門科目」を配し、より良い生活の実現を目指す総合力を養う。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自己にあった学びを体系的にできるよう配慮し、ビジネスに必要な専門知識を身につけさせる
2. アクティブラーニングによる学びを取り入れ、社会で求められるコミュニケーション力や問題解決力に加えて、クリエイティブな力を身につけさせる

〈こども発達専攻〉

1. 精神の発達、身体の発達に応じた科目をバランスよく配置して、個人の発達とともにその発達を支える社会との関連を学び、人間を総合的に観る能力を身につけさせる
2. 理論、演習、実習を1年次より有機的に配置して、2年間の学びの中で、実体験を生かして理解を深め、専門職への意識の向上を図る

ヘルスケア栄養学科

1. 「専門基礎科目(必修)」で基礎的学力を養い、「専門科目(必修)」から「専門科目(選択)」へと、段階を迫った系統的な学習を通じて高度な専門的知識を修得させる
2. 「実験・実習・演習」に重点を置いた実践的な学びを通して、専門的技能を身につけさせる
3. 豊かな人間性を養うための「教養科目」と高度な知識や資格を取得するための「専門科目」を置き、丁寧な個別指導を行い、個々の学生に適した学びを

可能にしている

学修成果の評価についてはルーブリック評価法を取り入れて行う。履修科目の単位認定に当たっては科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、日常点などを適切に組み合わせて評価し、その方法と配点は開講前にシラバスに明示する。

③アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

人間生活学科

人間尊重の精神をもち、自らの生活の向上のために前向きに努力できる人、またはその意思のある人。

〈キャリア創造専攻〉

1. 自身の将来に向けて目的意識を持ち、キャリアを構築する意思のある人。
2. ビジネス・ファッション・ブライダル・フード・観光・エアライン・医療・教育・DXなどに興味・関心のある人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）を身につけ、興味のあることに一生懸命に取り組んだことのある人

〈こども発達専攻〉

1. こどもを含めたあらゆる人間関係に意欲を持って、柔軟に対応できる人。
2. 人間生活を理解できる保育者となるための基本的資質（素直さ・明るさ・倫理観等）を持ち、弱者に寄り添うことのできる人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力（英語、数学、国語等）に加えて、社会生活を営むための基本的能力や自己管理能力を身につけている人

ヘルスケア栄養学科

1. 人の健康を食と栄養の面から支えるという目標を持ち、目標に向け努力を惜しまない人
2. 健康増進・医療・福祉に貢献できる、人間性豊かな人

高校での学びについて

高等学校卒業程度の基礎学力を身につけ、食や栄養の分野に関わる学びに興味がある人

【実施計画】

建学の精神に則り、令和5年度は下記の事業を実施する。

1. Society 5.0に向けた教育の質と学生生活環境の向上
 - ①新型コロナウイルス感染防止策を講じ学生と教職員の安全と健康を守る。
 - ②キャリア創造専攻の新たな方向性を検討する。
 - ③多様な学生の得意を伸ばし、質の高い Only One 教育を目指す。
こども発達専攻並びにヘルスケア栄養学科の保育士、幼稚園教諭、栄養士の資格「プラスα」の教育を推進する。

こども発達専攻では+α探究コースに「こどもスポーツ・ダンス」「こども英語」「こども心理」等10コースを設定し、学生が興味関心のある領域を積極的に学ぶことで、質の高い特徴ある保育者を育成する。

ヘルスケア栄養学科に導入したアスリートフードマイスター資格を軌道に乗せる。

④私立大学等改革総合支援事業タイプ1とタイプ3（プラットフォーム型）に応募する。

⑤ICT教育の推進－社会のデジタル化に対応して

学内LANが整備され、情報の大容量化や多くの場所で情報機器を使用することによって生じるトラフィック量の増大に対応可能となった。また通信の安定性が担保された。教育コンテンツ及び教育方法を進化させ（動画、同時配信ライブ、双方向等）、デジタル社会に即戦力となり得る教育を実践する。

⑥産学連携教育の推進

企業との連携による共同開発事業等を通して実践力のある人材を育成する。

- ・ヘルスケア栄養学科の(株)マルエツとの連携、
- ・キャリア創造専攻のリクルートスタッフィング(株)との連携および産学連携プロジェクトにより複数の企業（金融・IT・DX・ブライダルなど）との連携により商品開発などを行い、実践的な教育を推進する。

2. 学生募集の強化

①紙を媒体とする広報から電子媒体に切り替えていく。

- ・Web出願、双方向型Webオープンキャンパスを充実する。
- ・短期大学のホームページに加えて、各学科・専攻のホームページを充実する。

②各学科専攻の定員を確保する。

各学科・専攻の定員と令和5年度学生数（予定）

項目	人間生活学科		ヘルスケア 栄養学科	短期大学 全体
	キャリア 創造専攻	こども発達 専攻		
入学定員	30	60	80	170
入学者数（予定）	36	57	86	179
令和5年度2年生数	34	66	74	174
令和5年度在籍学生数	70	123	160	353
収容定員	60	120	160	340
収容定員充足率（%）	117	103	100	104

3. 就職支援とキャリア教育の推進

①資格教育の充実

- ・キャリア創造専攻ではIT・ビジネス資格を導入する。
- ・こども発達専攻の保育士、幼稚園教諭免許状の取得率90%以上を目指す。
- ・保育士または幼稚園教諭等の保育者としての就職率の向上を目指す。

- ・ヘルスケア栄養学科の栄養士免許取得率 85%以上を目指す。
- ・ヘルスケア栄養学科の栄養士として(栄養士免許活用を含む)の就職率 90%以上を目指す。

②公務員対策講座、eラーニングの実施、Web就職活動への対応

- ・公務員保育士の合格率を定員の1割以上を目指す。

③魅力ある就職先の開拓と就職率 100%の達成

④卒業生のフォローアップ

4. 地域社会への貢献

①市川市との包括連携協定事業の実施

②子育て支援センターの継続

③大学コンソーシアム市川の推進

④離職者等再就職訓練事業に参加する。

(2)昭和学院高等学校・昭和学院中学校

【基本方針】

『スクールミッション』

- (1) 将来、国際的視野を持ち、様々な分野でリーダーとして活躍するために必要な深い教養を身に付けさせるとともに、建学の精神「明敏謙譲」の態度を育成する学校
- (2) 中高一貫教育校として、教育活動の一層の改善充実を図るため、本校の教育課題を明確にして教職員の共通理解を図り、改善のための具体的方策を積極的に実践していく学校
- (3) 高いレベルの文武両道を目指す進学校として、生徒・保護者・県民の期待に応える魅力ある教育活動を実践するとともに、中学→高校への円滑な接続を図り、計画的・組織的・継続的な学習指導・進路指導を行い、生徒の進路希望実現を支援する学校

「スクールポリシー：魅力ある教育活動の指針」

① グラデュエーション・ポリシー：育成を目指す資質・能力に関する方針

(本校の育成したい生徒像)

- 1 自ら考え、自ら学び、自ら行動できる生徒
- 2 高い志を持ち、学習やスポーツ、文化活動に励む「文武両道」を目指す生徒
- 3 自らを律することができ、人を思いやることのできる人間性豊かな生徒

上記生徒像の具現化としての「3+1の力」の育成

- ・考 動 力：現状を批判的に分析し、課題を発見する力
課題解決のために計画を立て、実践する力
新たな価値を創造する力
- ・対 話 力：他者を思いやり、共感する力
他者の話に耳を傾ける力
自分の考えを発信する力
- ・挑 戦 力：失敗から学び、常に前を向き続ける力
好奇心をもって自分の視野を広げる力
限界を定めずに物事をやり抜く力

・自らを律する力

② カリキュラム・ポリシー:教育課程の編成及び実施に関する方針

☆本校は令和2年度より新コース制を導入しており、そのコースごとのコンセプトを示す

IA(インターナショナルアカデミーコース):国際感覚を磨き、海外で活躍する人材へ成長する
→ネイティブと日本人教員の2人担任制。オールイングリッシュの英語授業で、ツールとしての英語の精度を伸ばす。短期留学も推奨し、英会話力を磨くとともに、コミュニケーション能力やICT活用力も育てるなど、国際人、且つオールラウンダーとしての能力を育成するための特化したカリキュラム編成を行う。

海外大学、東京外国語大学、早稲田大学国際教養学部、国際教養大学などをを目指す。

TA(トップグレードアカデミーコース):変動する社会のリーダーとして生きる力を磨く

→少人数制・複数担任制で一人ひとりのサポートを徹底。高い志を持つ仲間との協働学習を通じ、社会に適応するのに必要な資質を鍛えられるのも魅力。各教科の基礎体力を向上させるとともに、思考力・判断力・表現力を磨くハイレベルな授業や、放課後講習、特別講座などで鍛え上げるカリキュラム編成を行う。

東京大、京都大、東京工業大、一橋大、国公立大医学部などの最難関大学を目指す。

Adv(アドバンスアカデミーコース):一人ひとりの「今」必要な学びをじっくり深められる

→千葉大など難関国公立大学や早慶上理などの難関私立大学に対応したカリキュラムで、質の高い授業を実施し、希望進路の実現をサポート。一人ひとりの課題を克服できるよう、放課後の特別講座、長期休業中のハイレベルな講座開講などのプログラムでサポートする。

Ath(アスリートアカデミーコース):文武両道を貫き、未来に生きる力を手に入れる

→全国レベルの部活動が多数ある環境で、高い目標を持って取り組みながら筑波大や早稲田大などの難関大への進学も実現させる「文武両道」を体現するコースで、授業中の集中力・理解度の向上を目指したカリキュラム編成を行い、したスポーツ・芸術部門での活躍を重視する生徒たちを支援する。

SA(サイエンスアカデミーコース):「科学のロマンを追い」をテーマに若き研究者を育成する

→科学に興味関心を持つ生徒と、それぞれの専門分野を指導する教師が一つのテーマを設定し、生徒と教師が研究に没頭することにより濃密な研究体験を重ね、最終的にはその研究成果を論文として発表することをミッションとする。これによって高められた資質・能力を科学的評価の高いレベルの大学への受験チャレンジにつなげていく。

GA(ジェネラルアカデミーコース):幅広い分野をバランス良く学べる環境で未来を思い描く

→自分の好き・楽しいを学びにつなげていけるコース。興味関心に合わせて探究学習、選択授業(マイゼミなど)を受けられる柔軟で興味・関心を引き出すようなカリキュラムを用意。多様な学習活動によって広い視野を獲得するなど自分の未来を思い描ける力を身につける。

☆ また、「3+1の力」を育成するため、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

ア ICTの活用 (ICT活用した主体的・能動的な授業)

クラス運営から授業まで全ての活動においてICTを最大限活用する。1人1台iPadを持ち、世界と瞬時につながる環境を通して、行動力と挑戦力を養う。また、情報モラルについて指導し、自らを律する力を養う。

イ 国際活動 (異文化理解・交流などの国際教育)

多数のネイティブの教員と共に多言語を使うことが当たり前になる環境を通して、対話力と挑戦力を養う。選択制の海外研修、1対1で英会話ができるオンラインスピーキング学

習などを通して、グローバルな視点での考動力を養う。

ウ 自律した学習者の育成

家庭学習のサポートを始め、周りの雑音をシャットアウトできるキャレルデスクでの自習室、困ったときに支えてくれるチューター制度、70000冊以上の蔵書を抱える図書館の静かな環境などを通して、自らを律して学習に向かう力を育む。

エ 探究活動(探究フェスタ) 学びの多様性・個性の多様性を探究でまとめていく

答えのない問いに取り組む活動を通して、3+1の力の全てを養う。年間を通して系統立てて行う探究の時間をはじめ、実験を重視した理科の授業や、行事の中でも多様な探究活動を行っていく。

オ 自主活動(よくする会・生徒会)

生徒たちが創造力豊かに意見を出し合う生徒主導での活動を支援して、3+1の力の全てを養うとともに、保護者・地域・外部企業と連携し、生徒の自主性を育てていく。

カ 体育活動の推進(部活動)

部活動、スポーツフェスティバルなど特色ある体育活動を通し、自他を尊重して対話を重ね、自らを律する力を育み、困難に立ち向かう挑戦力を養う。

キ 特別な配慮を必要とする生徒への対応(きめ細やかさ)

教員と生徒の関係は全ての基本であり、心の通った密な関係を通して、生徒の精神的な成長を支えていく。生徒指導・面談・相談対応など、困ったらいつでも方向性を示すとともに、全体的な指導だけでなく、1人ひとりにぴったり合った支援を行っていく。

ク 多様な評価の実施(進路実現・評価)

生徒が3+1の力を身に着けているか適切に評価するために、定期考査だけではない、各教科や学校生活の中で資質・能力ベースの多様な評価を実施していく。

③ アドミッション・ポリシー: 入学者の受け入れに関する方針

本校が育成を目指す資質・能力並びに3年間・6年間計画する教育内容を踏まえ、入学時には次のような生徒を求めている。

- ・中学校・高等学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身に付けようとする生徒 → 一般入試 など
- ・本校で身に付ける資質・能力を発揮し世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒 → 推薦入試 など
- ・座学のみならず地域等と連携した探究活動等の多彩な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力等を育もうとする生徒 → マイプレゼンテーション入試 など

【実施計画】

1. さらなる学力向上と進路実績の向上(Part2)

- ① 新コース制導入4年目、セカンドランナーとしてのさらなる進学実績の向上を目指す
 - ・コースごとの特色あるカリキュラムを、さらにハイレベルな授業内容で盛り上げていく。
 - ・クリエイティブな発想での魅力ある補習・講習を实践する。
 - ・コースごとの生徒一人一人の進路希望実現を最大限に支援する。
- ② 東大プロジェクトの恒常化(毎週土曜日に特別講習会を実施)
- ③ 学力推移分析会(中学)・模試分析検討会・ケース会議(高校)等の精度向上を目指す

- ④ 授業力向上を目指した各種研究会・研修会の企画と実践
 - ・教科を超えた相互授業見学を基本とした「授業研究会・研修会」の年2回開催
 - その際、著名な教育学者・授業実践者等を助言者とした授業研究研修会の実施
 - ・さらなるアクティブラーニングの精度向上と AL 研究に造詣の深い研究者を招聘しての校内研修会の実施
 - ・ICT を活用しての思考力・判断力・表現力のさらなる向上を目指す研修会等の実施
 - ・進学指導先進校視察、難関大学オープンキャンパス・研修ツアー等への教員の派遣
- ⑤ 自学自習体制の確立
 - ・各コースでの生徒相互の「学びあい」「教えあい」による切磋琢磨の実践
 - ・自習室での自学自習の習慣化とチューターによる特別講座への参加を促す
- ⑥ 探究学習の精度向上
 - ・答えのない問いに取り組む活動に協働して取り組み、多様な探究活動につなげる。
 - ・集大成の「探究フェスタ」で、日ごろ鍛え上げたプレゼンテーションの成果を披露する。

2. 部活動のさらなる活性化

- ① 各部において、コロナ禍の中での部活動の在り方を真剣に考える。
 - ・生徒と顧問とのより好ましい信頼関係の構築に励む
- ② 真の「文武両道」を目指す
 - ・運動部も文化部も、全国大会での上位入賞を目指す
 - ・部活動で頑張った生徒の難関大学へのチャレンジと合格を目指す
 - ・部活動終了後、20 時まで自習室にて学習し帰宅する習慣化を図る

3. 資質・能力の高い生徒の獲得

- ① 広報部による戦略的募集活動の実践
- ② 中高ともに、本校の特色ある入学試験で、豊かな個性・感性、優れた能力・適性を持つお子さんの獲得を目指す。

4. 高校入試のクリエイティブな改革に着手

- ① 高校入試改革 PT のさらなる精度向上を図る
- ② 高校・推薦入試における基準の改訂
- ③ 特色ある各コースの実践を強力に PR し、偏差値の高い生徒の獲得に注力する
- ④ 中学の学則定員増、高校の学則定員減を視野に入れて改革を進める(3年を目途に)

5. 安心・安全な学校づくり

- ① コロナ禍の中での、継続的な感染防止対策の徹底
- ② 生徒が快適な学校生活を送れるよう、常時、施設・設備の点検を心がける
- ③ 教師による、生徒一人ひとりに対する観察とコミュニケーションの徹底
- ④ マスク着用のない平常の学校行事实施のための準備を進める

(3) 昭和学院秀英高等学校・昭和学院秀英中学校

アドミッション・ポリシー～求める生徒像～

- ・本校の使命や教育方針を理解する生徒
- ・明るく健康的な生活に努め、他人の立場と意見を尊重できる生徒
- ・勉学に励み、より優れた自己を目指して新しい可能性を求められる生徒
- ・自分で主体的に考え、積極的に行動できる生徒

カリキュラム・ポリシー～教育の方針～

本校の建学の精神である校訓「明朗謙虚・勤勉向上」のもと、将来、地域社会・日本・世界に貢献する人材育成を目指し、そのための基礎作り・能力開発を行います。その実現のために以下の教育を行います。

- 1 思考力・判断力・表現力の育成、ひいては課題解決能力の育成を図るため、中学校からの入学生には6年一貫教育のメリットを活かしたカリキュラムを、高等学校からの入学生には3年間の効率的・効果的なカリキュラムを編成し、高い学力が身につく質の高い授業を行っていきます。
- 2 次世代を担う人材の育成を念頭に、異文化を尊重する理解力、語学力、グローバルマインドセットを養うプログラムを積極的に組み入れていき、ICT・AI化への対応を促す教育を拡充していきます。
- 3 探求的な見方や考察を促し、コミュニケーション力、学びや問題解決を支えるリテラシー、プレゼンテーション力を身につけ、自らが課題を発見し、解決する意欲と能力を育みます。
- 4 一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことを目標に、キャリア教育の視点にたって、系統的・組織的に、高い進路志望の実現に向けたきめ細かな進路指導を行います。
- 5 豊かな心の育成を目指し、明朗にして勤勉、豊かな人間性を育み、自主性を伸ばします。学校行事や課外活動を通して、視野を拡げ、主体性と協働性、他者尊重の精神を育み、健康的な生活を送るための体力とともに、リーダーシップを育成します。
- 6 ボランティア活動や福祉講演会などを奨励し、社会貢献の精神と高い倫理観を育みます。

グラデュエーション・ポリシー～卒業時に身につける力～

高い学力と課題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけ、グローバルな視野と他者尊重の精神をもって、Society5.0を見据えた次世代を担う能力と豊かな人間性を備えた人物の輩出を目指します。

以上3つのポリシーの基、以下の事業を計画する。

【ソフト面】

- 1 「今後の昭和学院秀英の教育ビジョン」を教職員に周知（学校のビジョンがなくて目的が明確でなかったため）する。
- 2 高校2年生からは内進生と高校からの入学生との混合クラスにし、切磋琢磨をする中で主体的で逞しさを培う。
- 3 基本的に一クラス40人学級編成（中学5クラス×3学年+高校7～8クラス×3学年=36～39クラス）にする。
- 4 理数教育の推進を図り数学オリンピックや科学オリンピックなどに参加して優秀な成果を収める。
- 5 哲学的な考え方（生きる意味を考えることと論理的に考えるトレーニング）の推進を図る。
- 6 東京大学に15人以上の合格者を出すことと国公立大学に100名以上の合格者を出す。
- 7 リベラルアーツ（高度な英語運用能力と幅広い教養）を重視した教育を行う。
- 8 神田外語大学との連携事業（年度当初に調印式を行う予定）を行う。
- ① 高校2年生対象にオーストラリアのスウィンバーン大学マレーシアキャンパスでの英語研修（初年度は40名から60名）
- ② 神田外語大学での年20回の授業参加（英語4技能、特にスピーキング力とライティング）

力の向上を図る。時間は16 時30 分から18 時までであり、前期10 回・後期10 回の計 20 回を実施する。その際に、必ず自己評価と客観的な評価も取り入れる。対象は高校 2 年生とし、次年度は定員20 名とする)

- 9 中学校3 年生での海外研修（日新航空サービスによるカナダ（ビクトリア・バンクーバー）とアメリカ（オレゴン州ポートランド）の三か所にて実施）を行う。
- 10 中学生の躰（挨拶・礼儀・言葉遣い・授業に参加する時の取り組み姿勢など）を重視（特に中学1・2 年生、中学3 年生は高校に進むための自覚づくり）する。
- 11 中学校にて英語・数学・国語の指導強化（授業の仕方・補習・講習・課題学習・個別指導により全生徒に対して現高校1 年生並みの学力を身につける）を図る。他の教科については宿題等を減らし、負担感をなくす。
- 12 高校生の主体的な学習（やらされている学習から自発的な学習への転換）のために、教員が一方向的な教え込みの授業から主体的な授業を行うようにする。
- 13 主体的な学習へと転換していくためにコーチングに関する教員研修を行う。基本的には、校長が講師となるが、必要に応じて外部講師を招くこともある。基本的には、木曜日の職員会後に実施する。また、今後の将来を担う若手教員については、20 代・30 代に分けて対話型の校内研修を実施し、指導力向上を図る。また、教科ごとの若手教員研修も行う。さらには、個人に対して指導強化を図る必要がある若手教員については、個人研修を行う。そのため、高校1 年生で行っている数学と英語の少人数授業と称して行っている習熟度別授業を廃止する。既に、中学校で一定程度の学力は中学生全員が身に付けているようにしておくので、差別意識は払拭されるとともに、生徒同士で様々な生徒が教え合い学び合うことでお互いへの尊重の念を深め、切磋琢磨する精神を養うことになる。
- 14 学校生活を謳歌させる（学校行事や部活動の活発化・例えば高校の合唱コンクール実施や高校3 年生の文化祭（雄飛祭）への参加も可能にする（各クラスで話し合う））。
- 15 高校においては、基本的には宿題を出さないで予習・復習をしっかりとさせる指導を行う。また、添削指導をいつでも行えるように課題を用意し、希望者はだれでも課題学習ができるよう、課題提出用コーナー（提出物用引き出しボックス）を設ける。具体的には、進路指導部と検討していく。
- 16 長期休業期間の講習については必要なものを行う（無理やり設定するようなことは避けたい。2・3 名の参加者希望者については個別指導とする。参加費用は少額にし、特に高校生が予備校・塾などに通わなくても十分に満足できるものとする）
- 17 昭和学院秀英創立40 周年記念講演会（令和5 年3 月17 日（金）ロンドンオリンピック金メダリスト・元WBA ミドル級世界チャンピオン村田諒太氏）は既に実施した。
- 18 毎月、校長室だより「秀英は輝く！」の配布とホームページ配信する。
- 19 広報活動を強化する。特に、高校受験については、東京都からの受験生と入学生を増加するために、東京から1 時間程度で通える箇所を中心として塾等に赴いて本高校受験を働きかける。その他、広報の強化を図るために本校独自の動画配信をして、本校の学校改善とこれからの可能性が目に見える形での広報を専門家に依頼して行う。すなわち、昭和学院秀英の認知度を高める。
- 20 総務会を企画会議という名称に変更し、協議機関と位置づけた。次年度は一層その会議の存在を重要視し、全教員に協議・校長決定した内容を周知徹底する。したがって、職員会は校長からのメッセージおよび報告・連絡機関として明確化する。

- 21 ケンブリッジ英語検定の導入（2月26日（日）に高校1・2年で実施する。次年度も行うことによって世界に通じる英語力の向上と英語検定資格を持たせる。
- 22 大学受験に関しては、これまでの学年任せのばらつきのある指導から脱却して、進路指導部を中心とする受験指導にする（したがって、必ず年度の変わり目には学年間の引継ぎを行う）その際に、何故東大が良いのか、何故難関国立大学が良いのかなどを中学生の時からキャリア教育の一環として教授する（本校の課題は中学校での教育にあると考える）。
- 23 FCE エデュケーション・Find！アクティブラーナー研修の導入（各教員がいつでもどこでも3000個から4000個のコンテンツの動画等で自己研修を行うことができる）する。
- 24 令和5年10月から11月の中で天文学者小平桂一博士の文化講演会を予定（ハワイ島にあるすばる望遠鏡の建設責任者）している。
- 25 中学校入試の日程の見直しをする。市川学園の第1回入試（幕張メッセで実施）の午後入試の是非を検討する。もし、まだ午後入試を実施する必要であると判断した場合には、むしろ渋谷幕張中学校の第1回入試の午後にした方が良く考える。何時までも市川中学校の受け皿として考えてはいけなく考える。次年度に向けて早急に検討する。
- 26 事務職員と教員との連携を強化して教職員間の円滑化を図る。
- 27 その他、良く考えることは随時判断して行動に移すようにする。

【ハード面】

- 28 生徒のオープンスペースを設置（生徒同士の対話や学び合いと教員が教科指導等を行える部屋の設置）する。
- 29 集中して学習できる自習室を設置する。30 小講堂用トイレ・高校棟北側3階・4階男女トイレ・体育館トイレの改修を行う（次年度になる予定）
- 31 教室を広く使用するために、高校の教室の壁側の物入れを取り除き、柱の左右に既成のホワイトボードを設置する。そのことに伴い、コート掛けボックスと掃除道具入れを置く。
- 32 夏季休業期間などに全教室・職員室・廊下などの汚れを落とすポリッシャーでの洗浄をしたうえでのワックスがけを行う（その後の生徒・教員による清掃はしやすくする）。
- 33 教室のLED化に努める。
- 34 緑豊かな環境といつでも草花が咲き誇る心温まる環境整備を行う。
- 35 事務職員と教員との連携を強化して教職員間の円滑化を図る。
- 36 以上のソフト面とハード面についての取り組みなどに関する生徒・保護者・教職員のアンケート調査を学期ごとに行い、よりよい教育活動が行えるよう努めていく

（4）昭和学院小学校

【基本方針】

○グラディエーションポリシー：本校の児童に学びの中で修得してほしい力・態度

小学校学習指導要領を踏まえて、次の資質・能力を中心とした、生涯にわたって学び続ける力の基礎を身に付けさせます。

- ・確かな学力と創造性、豊かな感性
- ・人権尊重の精神と学びを支える力（人間関係、コミュニケーション能力）

- ・主体的・積極的に活動に取り組み、自ら課題を見出し解決する力

○カリキュラムポリシー：教育課程の編成・実施方針

小学校学習指導要領に則り、人間として調和のとれた子どもの育成を目指し、適切な教育課程を編成するとともに、地域の先進的な教育モデルとなるべく先行的な実践にも積極的に取り組みます。その際、次のことがらを教育目標として、教育環境を整え、教育課程を編成します。

- ・初等教育段階での「基礎・基本」の確実な理解とそれを活用する力の育成
- ・ Society5.0 時代に生きる力となる創造力と ICT 活用能力の伸長
- ・子どもの学習状況に応じた学力の伸長（ICT などを活用した個別最適の学びの実現）
- ・主体性と協調性を育み、国際社会で活躍できる資質・能力の養成

○アドミッションポリシー：入学者受け入れの方針

本校は子どもの個性を尊重し、それぞれのよさを伸長することをモットーとしています。

また、仲間と協力して自分らしさを磨いていくことを大事にしています。そこで、次のような子どもたちを受け入れます。

- ・誰とでも仲良く協力しようとする協調性のある子ども
- ・最後まで諦めずに粘り強く取り組もうとする子ども
- ・新たなことに積極的に挑戦しようとする子ども
- ・意欲的に学ぼうとする姿勢のある子ども

【実施計画】

1. 子どもの豊かで深い学びの構築

- ・ 個別最適の学びと協働的な学びの適切な組み合わせの探究
- ・ 豊かな心と体を育てるために人権教育、キャリア教育、福祉教育、食育、安全教育等のさらなる充実

2. ICT 化の推進

- ・ タブレット端末を活用した授業の更なる展開とその効果の検証
- ・ スマートボード、液晶テレビ、黒板という 3 面のディスプレイを効果的に活用した教育活動の実現
- ・ プログラミング教育の充実

3. グローバル化の推進

- ・ 英語の授業、イングリッシュキャンプのさらなる充実
- ・ 長崎県佐世保でのイングリッシュキャンプによる国際交流

※英語(外国語)で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力を重視

- ・ SDGs 教育に取り組み、世界に目を向ける

4. 学習環境の整備

- ・ ウェスト館の有効活用（3年生3教室は今年度より全て使用）
- ・ スマートボードの有効活用
- ・ 図書館教育の充実と各教科との連携を図る
- ・ 本館3階（夏休み）、2階（春休み）の床の張替え

5. 教師の指導力向上

- ・ 校内研修のさらなる充実（外部講師による指導）
- ・ 授業研究（授業公開、授業後の研究協議会）の実施

6. 児童募集・広報活動の強化

- ・ 少子化の中での定員の確保
- ・ ホームページの改訂・充実と、恒常的に情報を更新
- ・ 学校説明会の充実（初めてのイブニング説明会の開催）
- ・ 北総線電車内への児童募集ポスターの掲示
- ・ 幼児教室等が主催する学校説明会等における広報活動の推進
- ・ 千葉県私立小学校フェアへの参加

（5）昭和学院幼稚園

【基本方針】

建学の精神の下、幼児期にふさわしい特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本に置き、生涯にわたる人間形成の基礎を培うための教育を展開する。

同時に令和4年度から引き続き『幼児期に育てほしい10の姿』を踏まえて小学校との円滑な接続を図ることに重きを置いて進めていく。

また、厳しい少子化に際し、園児募集を最重要課題として取り組む。

(1) 幼稚園教育において育みたい資質・能力

- ・ 知識及び技能の基礎
- ・ 思考力・判断力・表現力などの基礎
- ・ 学びに向かう力、豊かな人間性

(2) 小学校教育との円滑な接続

○「健康で明るい子」を育てる

- ・ 多様な経験を通して豊かな感性を伸ばす
- ・ 遊び、運動、食育を通して体力づくりの徹底

○「みんなと仲よく遊ぶ子」を育成するために

- ・ 日常生活の中で言葉への興味や関心を育てる
- ・ 遊びやかかわりを通じて自分以外の人の気持ちに気づかせる

○「優しく思いやりのある子」の育成

- ・ 人への愛情や信頼感を育てる
- ・ 身近な自然や物に関心を持ち、触れて感じて理解することで豊かな人間性を育む
- ・ ルールを守る必要性の理解

○「自分で進んでやる子 創意工夫のできる子」を育成するために

- ・ 身の回りの環境に積極的にいかかわり、諦めずにやり遂げる達成感を味わう
- ・ 自然など事象などへの興味や関心を育てます
- ・ 子どもの「できた！」という達成感の積み重ね

○カリキュラムマネジメントの実現

- ・ アプローチカリキュラム
学びの芽生えを大切にした活動の充実
協同的な遊びや体験の充実

- 自立心を高め安心して就学を迎えられる活動の充実
- ・スタートカリキュラムへつなげる

【実施計画】

- 1、教育活動の充実
 - ・日本語・数の教育の充実（週1～3日 学びの時間増設）
 - ・英語教育の充実（週5日）
 - ・体力向上に向けた活動の充実（朝の体操、週1日体育教室）
 - ・情操教育の充実 専門の講師による指導（ソルフェージュ・ダンス・絵画等）
 - ・年長宿泊行事の導入
- 2、教員の保育研修
 - ・園内研修・相互の保育見学・意見交換
 - ・指導力の向上
- 3、行事の充実
 - ・音楽鑑賞会、観劇会、保護者対象講演会の充実
 - ・誕生会、夏祭りの充実
 - ・保育参観の改善
- 4、少子化対策として未就園クラスの拡大、充実
 - ・ひよこクラブの改善
 - ・未就園児音楽教室、ダンス教室の充実 ・ 短大図書館(学童の部屋)を利用
 - ・未就園児英語教室 新設（1, 2歳児の英語）
赤ちゃんから取り込む
 - ・『子育て相談会』、『読み聞かせの会』を新設 ・ 短大図書館(学童の部屋)を利用
 - ・説明会、見学会の改善
- 5、募集活動の充実
 - ・説明会・見学会の改善
 - ・保育体験会、人形劇鑑賞会、読み聞かせ、園庭開放等開催
- 6、給食の改善
 - ・週4回の給食、希望者は毎日
 - ・業者の変更
- 7、預かり保育・課外教室の充実
 - ・スイミングスクール開講(アーデルと提携)
 - ・昭和小内部進学に向けて幼児教室めえでると提携
- 8、園舎、園庭の整備
 - ・補助金を利用した施設の整備（園庭斜面整備）
 - ・10年目点検 ・外壁のみ令和4年度に実施
- 9、その他
 - ・長袖体操服、スモッグの改良を検討
 - ・新制度採用の検討